

科目名称：	空間デザイン演習	
担当者名：	渡邊 秀亮	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	1
授業の目的・テーマ		
立体造形は平面作品と異なり、空間に存在し、かつ空間をも含めて構成されるものである。身の回りの様々な素材を使って立体作品を制作することにより、空間の認識や把握を養う。素材の持つ本質的な姿、意味を考えながら塊、面、均衡、動勢などを表現することを目的とする。		
授業の達成目標・到達目標		
日頃おこなわない立体表現をすることにより、独創性や表現力が養われ創造の楽しみ、喜びを体験することができる。これにより、自己の制作・研究により深みをあたえ、より良い制作につなげる。		

美術学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、主に基礎教育科目により、基礎知識を修め幅広い教養を身につけ、多様な文化や考えに対応できる。	
DP(2)	主に専門科目により、美術に関する理解を深め豊かな表現力を身につけ、社会の一員として貢献できる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様な社会に対応できるように、自己表現を深化させながらも他者の意見を尊重し、様々な表現を受け入れる豊かな人間性をもっている。	
DP(4)	様々な課題に取り組み、応用力と創造力を身につけて、その中から自己の個性を磨き表現できる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
美術DP(1)					0
美術DP(2)			60	40	100
美術DP(3)					0
美術DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》金沢美術工芸大学非常勤講師	《経験年数1》通年で7年間、その後科目等で7年
	《内容2》金沢市民芸術村アート工房ディレクター	《経験年数2》10年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
平面的にならずに、立体的な表現ができている。	制作物がどこから見ても作品として成立している。	見られる視点を意識しながら立体表現ができている。	立体を意識して制作できている。	平面的な表現になってしまっている。
素材を理解し、空間における立体を理解することができる。	課題ごとによく素材を理解し、造形することができる。	素材の良さを引き出すことができている。	素材感を意識することができる。	素材の良さを表現できていない。
作品が独創的な表現をすることができる。	今までに見たことがないような独創的表現ができている。	よく工夫された表現ができている。	参考にした作品はあるが、本人なりの工夫がある。	参考作品をそのまままねしている。
課題制作を通して、創造を楽しむことができている。	講座を通し、誰から見ても楽しみながら制作できている。	楽しそうに、課題にきちんと取り組んでいる。	きちんと課題に取り組むことができている。	ただ参加しているだけで、やる気が感じられない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 ガイダンス、ペーパークラフト体験	授業の内容についてシラバスを確認する	10分
第2回 ペーパークラフト 1	ペーパークラフトについて調べておく (立体構成)	20分
第3回 ペーパークラフト 2	ペーパークラフトについて調べておく (立体構成)	20分
第4回 ダンボールアート 1	ダンボールアートについて調べておく (立体構成)	20分
第5回 ダンボールアート 2	ダンボールアートについて調べておく (立体構成)	20分
第6回 粘土による立体 1	対象物を正確にとらえる練習をする (野菜、果実のデッサン)	20分
第7回 粘土による立体 2	野菜、果実の粘土作品を調べておく	20分
第8回 粘土による立体 3	野菜、果実の粘土作品を調べておく	20分
第9回 綿棒アート 1	綿棒アートの立体作品を調べておく	20分
第10回 綿棒アート 2	綿棒アートの立体作品を調べておく	20分
第11回 モビールについて、モビール制作 1	モビール(動く立体)について調べておく	20分
第12回 モビール制作 2	モビール(動く立体)について調べておく	20分
第13回 モビール制作 3	モビール(動く立体)について調べておく	20分
第14回 ワイヤーアート 1	ワイヤーアート(針金)の立体作品を調べておく	20分
第15回 ワイヤーアート 2、プレゼンテーション	作品の講評ができるように準備する	20分

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
課題作品の評価60%、授業に対する意欲40%の割合で評点を算出する。

課題に対してのフィードバック

課題作品は返却の際に評価の内容をコメントする

教科書・参考書

特になし。必要に応じてプリント配布